凡　事　徹　底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和２年度
第５号（９月号）

２学期も、「夏ノ暑サニモマケヌ」対策をしていきましょう！

校長　小山　晃弘

□2学期が始まりました

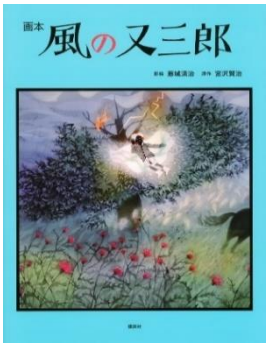
例年より２週間ほど短かった夏休み、旅行や宿題の計画も立てにくく、あっという間に過ぎてしまったのではないでしょうか。夏季休業中も三者面談や部活動への取組にご協力いただきありがとうございました。元気に部活動に取り組む二中生の姿に、たくさんの元気をもらいました。

併せて、保護者の皆様には、コロナ感染防止に向けてご配慮いただき、ありがとうございます。

８月は猛暑が続き、連日気温３０度を超える日が続きました。後半は少しだけ落ち着いてきたようですが、まだまだ９月に入っても、暑さは続きそうです。

さて、皆さんもよくご存じの宮澤賢治さんの「雨ニモマケズ」は、冒頭「雨ニモマケズ　風ニモマケズ　雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ　丈夫ナカラダヲモチ」とはじまり、誰でも一度は暗唱したことがあると思います。この「雨ニモマケズ」は、宮澤賢治さんが晩年、病床で手帳に書き留めたメモであり、亡くなった後に、世に見いだされたものです。ですから、もともと「雨ニモマケズ」といった題名が付いていたわけではありません。

宮澤賢治さんは詩人・童話作家・教員など多方面での活動が知られていますが、岩手県立花巻農学校（岩手県立花巻農業高等学校の前身）を退職したのちは、田畑で農作業に励んだ時期もありました。このメモは後半に「ヒデリノトキハナミダヲナガシ　サムサノナツハオロオロアルキ」とあります。この手帳の内容については、研究者によって諸説あるとは思いますが、一つの「詩」として私なりに読みとらせてもらえるとしたら、賢治さんが農業に携わっていた時は、「暑さ寒さ」といった気候の変化や、「雨雪」といったその日の天候に、そして、自然が起こす災禍に立ち向かうことのできない日々に、思い悩んだこともあったのではないでしょうか。



講談社「絵本風の又三郎」より

しかし、宮澤賢治さんが望んだような丈夫な体をもっていたとしても、この夏の連日の暑さは耐え難いものがありました。コロナの感染予防と、併せて熱中症の予防も考えていかなければなりません。熱中症とマスクの関係が連日報道されていましたが、教室で授業を受けているときのような、身体的距離が十分とれない場合には着用すべきですが、例えば、登下校時などは、気温・湿度や暑さ指数が高い日は、マスクを外し、健康被害を起こさぬよう注意することも必要です。もちろん、その際は、人と十分な距離をとり、会話を控えることが重要です。また、以前お知らせしたとおり、帽子や日傘の活用についても有効です。荷物をなるべく減らすことも効果的です。「夏ノ暑サニモマケヌ」よう、できる対策から始めましょう。

一歩ずつではありますが、日常生活に戻れるよう準備をしています。「密閉・密集・密接」の三密を避け、「大声を出さない（会話は適度なボリュームで）」を心掛けながら、学校生活を送ってほしいと思います。

《学校教育目標》
自ら学び、深く考える生徒　（知）
心豊かで、思いやりのある生徒　（徳）
たくましく、健やかな生徒　（体）

蕨市立第二中学校
電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp